



原町小だより「はらまち」

川口市立原町小学校
全校児童数399名

「なかよく」「かしこく」「たくましく」

HPアドレス <https://haramachi-kawaguchi.edumap.jp/>

「あなたは、あなただから素晴らしい」

校長 加田 明

黒柳徹子さんが書かれた「窓ぎわのトットちゃん」をお読みになったことがありますか？徹子さんは通っていた家の近くの小学校を問題児扱いされて1年生の時に退学になりました。

私が（学校の）窓からね、チンドン屋さんと話したりとか、そこで掃除している文房具屋のおばさんに「おばさんおばさん」なんて窓のところで話しかけたりしたんでね、先生もいやになっちゃったらしくて、母が呼ばれて、「もうとても手に負えないので、よそへお連れください」って言われて・・・（NHKプロフェッショナルより）

その他にも、徹子さんは、教室の机のフタをおもしろがって（昔の学校の机は上に開いたから）授業中に百回ぐらい開けたり閉めたりしたり、つばめが巣を作って行ったり来たりしているのを見て、授業中に窓から身を乗り出して「何してるの」「何してるの」と何度もつばめに聞いたりもしました。当時の隣のクラスの担任先生の話によれば、徹子さんは毎日のように廊下に立たされていたそうです。

しかし、転校先の「トモエ学園」では、「トットちゃん、君は、本当は、いい子なんだよ。」と校長先生（小林宗作先生）に毎日毎日言われ続けて、徹子さんは卑屈にもならず孤独にもならず、少し変わった自分を受け入れ伸び伸びと育ちます。また、徹子さんのお母さんは「退学になった」という事実を、二十歳過ぎまで徹子さん本人に話さないでいたそうです。

LD（学習障害）の本には、たいがい私の名前が出ています。（中略）私が少し知った事は、本当はLDなのに、親のしつけが悪いとか、努力が足りないとか、自分勝手な子、という風にいわれてきた子が、かなりいるということでした。（中略）早くLDとわかれば、周りのみんなが、その子を理解し、自信を持たせて成長させていくことができますが、そうじゃないと、イジメにあったり、自信をなくしたり、大きくなって、引きこもりになってしまうこともあるらしいんです。（「窓ぎわのトットちゃん」あとがきより）

二十歳のとき徹子さんはNHK専属のテレビ俳優としてデビューしましたが、はじめはその独特のキャラクターが個性的すぎると番組の製作スタッフから敬遠されてしまいます。しかし、落ちこぼれた徹子さんにある日、ラジオやTVの脚本を手掛けていた劇作家 飯沢匡さんが「君はそのままがいい」と声をかけてくれました。

誰もそれまであなたの個性は大事だからそのままいてくださいなんて言うてくださった方はいませんでした。邪魔とみんなに言われていました。邪魔なんだから、あなたの個性を引っ込めてと言われ続けてきました。そこを「君は、そのままでもいいんだよ」とおっしゃってくださった方にお会いしたのです。「嬉しかった。このままでいいんだ」と・・・（NHKプロフェッショナルより）

徹子さんはその後自分らしさ全開で仕事に臨み、やがてその個性的なキャラクターが人気を呼び、次々と仕事の依頼が来るようになりました。そしてTV史に刻まれる数々の名番組に出演しました。

現在、埼玉県調査では通常の学級に在籍している児童生徒のうち、特別な配慮を必要とする児童生徒の割合は10%以上と言われています。なかには他の人とは違うことでコンプレックスを抱いてしまったり、自分自身に自信が持てない子供もいます。すべての子どもが自分の所属する教室に居場所があり、自分のよさを高めようと意欲をもって生活できる環境、他者と協同して豊かな人間関係を形成していける環境づくりが必要です。

徹子さんは次のようにも語っています。

「個性的な子ほど仕事をやったときうまくいくかもしれないから、ほかの人にはない個性を持っている子はそこを伸ばしてあげて欲しい。ほかの人と違うからだめだと否定しちゃうのは、本当に良くないわ。子供にとって一番がっかりしちゃうことは、否定されることですよ。小さいときから、何をやっても「いけない」と言われれば、自分が愛されていないと思い、自信もなくなると思います。」

「まずお母さんたちには、小さいときは褒めることが絶対大事です。『すごいじゃない』『そんなことできるんだ』『あなた、そんなことわかってるなんてすごいじゃない』って。いいところを褒めれば、子供は元気になっていくと、私はそう思います。」

子供は（人は）一人一人違います。違うから素敵だし「あなたは、あなただから素晴らしいんだよ」ということを子供たちには伝えていきたいと思っています。人と違うことを差別やイジメの理由にしてはなりません。そして、「あなたがあなた自身を大事にするように、あなた以外の人のことも大事にしようね」ということを子供たちに理解させ、人との違いから学び合える人になってもらいたいと思います。

国籍や男女の違いや障害の有無などにとらわれない社会を築いていける力を子供たちに育みたいと思います。